

事業完了報告書

調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ～ 平成29年3月17日
調査研究事項	<p>《委託研究Ⅱ》</p> <p>【宮城県】</p> <p>ア. 設置の需要に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交通の便を考慮した設置場所に関する調査 ・ 設置ニーズに関する調査 <p>イ. 入学要件や受け入れに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入学要件や受け入れのための仕組みと方法に関する研究 <p>ウ. 教員の配置や研修, 教材その他学校運営に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さまざまな年齢層, 国籍, 学習歴の生徒を対象とした教材等の開発 <p>※ この他に, 中学校夜間学級（以下「夜間中学」という。）の設置促進に資する研究に総合的に取り組むこととする。</p>
調査研究のねらい	<p>文部科学省の問題行動等調査によれば, 本県中学校の平成26年度の1, 000人当たりの不登校生徒数は33.7人となっており, 全国でも高い水準となっている。</p> <p>このため, 不登校等によりほとんど学校に通えないまま, 学校の教育的配慮により中学校を卒業している事例も多く, こうした生徒たちは, 義務教育段階での学習内容に十分に触れることができず, 結果として高校への進学や社会生活における自立に困難を抱えている状況があると考えられ, 不登校等に対する取組を一層充実させる一方で, 義務教育段階での学習に十分に取り組むことのできなかつた人々への教育の機会の提供をどのように行うかということが課題となっている。</p> <p>現在定時制高等学校を中心とした学び直しの機会が提供されているが, 今後夜間中学を設置することにより, 落ち着いた環境の中で改めて義務教育段階での学習に取り組むことができる環境を整備することができるものとする。</p> <p>また, 多様な理由で義務教育未修了のまま学齢を超過した人々への学習機会の提供や, 外国籍の人々に対する日本語学習を中心とした義務教育段階の学習機会の提供など, 幅広いニーズへの対応も必要であるとする。</p> <p>これらのことを想定し, 交通の便を考慮した設置場所に関する調査, 様々な年齢層, 国籍, 学習歴の生徒を対象とした教材の開発, 入学要件や受け入れのための仕組み, さらには高校段階の学習への円滑な接続についてなど, 中学校夜間学級（夜間中学校）の設置促進に資する調査研究に総合的に取り組むこととする。</p> <p>なお, 仙台市には民間の自主夜間中学が開設されており, 都市</p>

	<p>部においてニーズが高いこと推測されること、また、仙台市内に設置する場合には、通学のための交通の利便性が確保される必要があること、そして仙台市教育委員会においても宮城県教育委員会と同様の課題意識をもっていることなどから、本研究は、仙台市教育委員会と共同して行うこととしている。</p>
<p>調査研究の成果</p>	<p>○ 宮城県教育委員会及び仙台市教育委員会、並びに大学教授や教育関係者等の有識者による「夜間中学設置に係る宮城県教委・仙台市教委共同調査研究会」を設置し、本県における夜間中学の在り方について、仙台市教育委員会と共同で夜間中学設置促進に資する総合的な調査研究を進める組織を立ち上げ、準備会を含め計4回の共同調査研究会を開催した。</p> <p>○ 調査研究会には、下部組織として専門部会を設け、設置の需要に関する調査や自主夜間中学の実態把握などの各種調査の実施、調査結果等の資料化、先進自治体の視察、その他研究会での検討に必要な資料の作成等を行い、本研究会において、専門部会が作成した各種資料を活用しながら、研究事項に示した内容について有識者からの意見をもとに研究を進めることができた。</p> <p>○ 研究事項については、交通の便を考慮した設置場所、さまざまな年齢層、国籍、学習歴の生徒を対象とした教材の開発、入学要件や受け入れのための仕組みと方法、高校段階の学習への円滑な接続等について検討を行い、県教育委員会及び仙台市教育委員会双方において、情報を共有しながら夜間中学設置に向けた認識を深めることができた。</p> <p>○ 設置促進に資する調査研究では、専門部会のメンバーによる先進地視察として、仙台市内に設置されている自主夜間中学をはじめ、大阪府及び東京都の夜間中学校等5カ所をそれぞれ訪問し、教育課程や教材・教具の工夫などについて情報収集するとともに成果と課題を含めて実態等を把握することができた。</p> <p>○ 専門部会での調査、先進自治体の視察結果及び計4回にわたる共同調査研究会での議論等から、本県においても学び直し、日本語習得を中心とした学習機会に対する需要は少なくないものと考えられ、夜間中学校の設置の必要性について、共通の理解を深めることができた。</p> <p>○ 調査研究会においては、設置の場所については、多くの需要が見込まれること、広域からの生徒が通学しやすいこと等の理由から、仙台を中心とした都市部に夜間中学を設置することが望ましいとの認識をもつことができた。</p> <p>○ その一方で、通学が困難な仙台圏以外の地域におけるニーズに対しては、県立定時制高等学校での科目履修による日本語教育や学び直しによる対応が考えられるが、その具体的な方策については今後さらに研究していく必要があるとの考えを深めることができた。</p> <p>○ 今回の調査研究によって、仙台市内及びそれ以外の地域におい</p>

	<p>て、さまざまな年齢層、国籍、学習歴の生徒を対象として何らかの教育機能を設置する方向性を宮城県・仙台市双方の教育委員会で共有することができたが、他自治体の視察結果から、形式的卒業者と外国籍の人々では同一カリキュラムで学習することが困難な実態を把握することができたことから、多様な生徒に対応できるカリキュラムの構築や職員配置、施設設備などについては、今後も夜間中学設置に向けて具体的な研究を継続的に進める必要があることを認識することができた。</p>
--	--